

狩勝高原園地の目指す姿について具体的に考えましょう

昨年度の基本構想を経て、今年度は、単なる一つの公園整備としてとらえるのではなく、狩勝高原園地を核として新得町全体に波及効果をもたらす取組みとなり、町民とともにある場作りをすることを目指しています。

日時

平成 23 年

11 月 25 日

19:00~

場所

新得町公民館 2 階会議室

開催概要

第二回目のワークショップでは、園地再整備の方向性として3つの視点が示されました。狩勝高原園地の将来像として町民にとって価値のある場所とするため、活用のイメージについて意見交換を行いました。多くの方に参加頂き活発な議論を交わすことができました。

プロジェクトに関わるご説明



狩勝園地再整備計画に対する検討内容のご説明のあと、意見交換を行いました。今回は17名ものご参加をいただき、活発な議論が交わされました

狩勝高原園地の現状

潜在的可能性

狩勝高原園地の資源として旧狩勝線、桜並木、梅園は磨けば光る潜在的可能性を持つ。

問題点

町の施設として一町民の関心が弱い園地の資源として

→現状の資源では「これで売れる」という決定力がない

観光地として

→社会的な観光動向の変化、道内観光動線や志向が多様化して固定したに捉えられない。

狩勝プロジェクトを進める3つの視点

町民利用の視点

町の財産であり、町民にとって価値のある場所となるのが大切である。町民の関心を高める取り組みと合わせて進める視点を大切にす。

段階的で柔軟に取り組む視点

多様化する社会的・観光のニーズに対応する姿勢が必要である。再整備をハード改修だけにとどまらず、ソフトも含めたトータルな園地活用計画として考える。

総合的戦略の視点

教育、福祉、観光の各方面と具体的な連携を考える。新得町の総合計画や観光振興計画で示された、町として力を入れていく取り組みを具体化し町の魅力を高める視点を大切にす。

意見交換

町民の目線で考えた場合に狩勝高原園地はどうあるべきか？という視点から意見交換を行いました。

町民にとって狩勝園地はどんなところ？

→リゾート開発の負のイメージ、町から遠く現状では行く目的がない

- ・町内から遠いので子どもたちが気軽に来られない
- ・30年前のリゾート開発時の負の遺産のイメージが強い。負のイメージの払拭が必要。
- ・10年前は整備されている印象があったので使っていた。最近は行っていない。
- ・町から離れていることはそんなに大きな課題ではない。町中の公園にも車で行く人は多いし、目的がはっきりすれば人は来るだろう。



どんな場所になれば、狩勝園地を町民が利用するか？

- ・家族連れが気軽に立ち寄れる。子どもが遊べる場所があれば、家族で利用する。水遊び場や噴水、足湯。
- ・ブドウの剪定、梅の剪定教室など自分に還元されるものがあれば行く。
- ・一発施設整備ではなく30年先を見た町民のための土台を築いていくべき

→長期的な視野に立ち町民の財産となる土台を築くことが大切。家族で遊べる場所は利用しやすい。町民が活用できるものが観光客に喜ばれるものであってもよい。

観光客の受け入れも、同時に大切に考えたい

- ・みんなが訪れたいおしゃれなカフェがあるとよい。今のシーニックカフェでは一部の人しか利用していない。
- ・四季を感じさせるものが必要。
- ・6月は本来北海道の一番いいシーズンなのに、園地は見ることがなくなるので人が来ない。

- ・情報発信により町民の協力を得るという戦略を組み立てることも大切。

もっと町民の理解関心を高めることが大切

- ・町民は「今更狩勝園地？」と思っている人も。理解を得て、関心を高めるために情報発信が大切。

→今年度の3回で終わらず、今後継続してしっかり町民とともに取り組むべき

食や地場のものが楽しめる場所に新得や狩勝園地のストーリーを大切にする

- ・サホロ酒造と町内の地場産品の売店が必要。
- ・炭焼き小屋で地鶏やシカの薫製をしたり、作った炭でバーベキューなど、活用の方法は十分ある。
- ・園内には良質なわき水があるので、山わさびの生産、新得そばと一緒に出すなどできるのでは。
- ・馬糞を堆肥として商品にする。ガーデンで活用してもよい。
- ・梅酒・梅ジャムなど園地の特色を生かした食べ物があること
- ・新得そば祭りでその年のチャンピオンを決める。その人のそばが食べられる店があってもいい。新得らしさを感じられる。

→町民にとっても観光客にとっても、「食」「地場のもの」は魅力的である。狩勝園地ならではのストーリー性のあるものが楽しめるものがよい。



具体的に解決すべき園地の課題

- ・ピーク時の駐車場は足りていない。現在最大で100台駐車可能。トレイルランニングなど今後の展開を予想すると200~300人まで参加者増える可能性があり、同時に駐車場が課題になる。
- ・雨の時でも過ごせる場所が欲しい。休憩所がなく抛り所がない
- ・散策路の整備、案内の充実
- ・北海道の人はとにかく車から降りたがらない。今の園地内を車で回っている人がいるが、降りてゆっくり歩いて楽しんでほしい
- ・国道から見えやすく入りやすいように。サインの位置、道路沿いの景観整備。

→休める場所、雨をしのげる場所、駐車場など園地を利用する上で基本的な便益施設が整っていない。利用を広げるためのハード整備として基本である。

次回（第3回WS）が今年度の最終回になります。これまでの成果をとりまとめ、具体的な計画案を提示する予定です。新しい参加者も歓迎していますので、ふるってご参加ください。

お問い合わせ

新得町役場産業商工課観光係

市川 0156-64-0522

高野ランドスケーププランニング(株)

赤嶺 0155-42-3181